



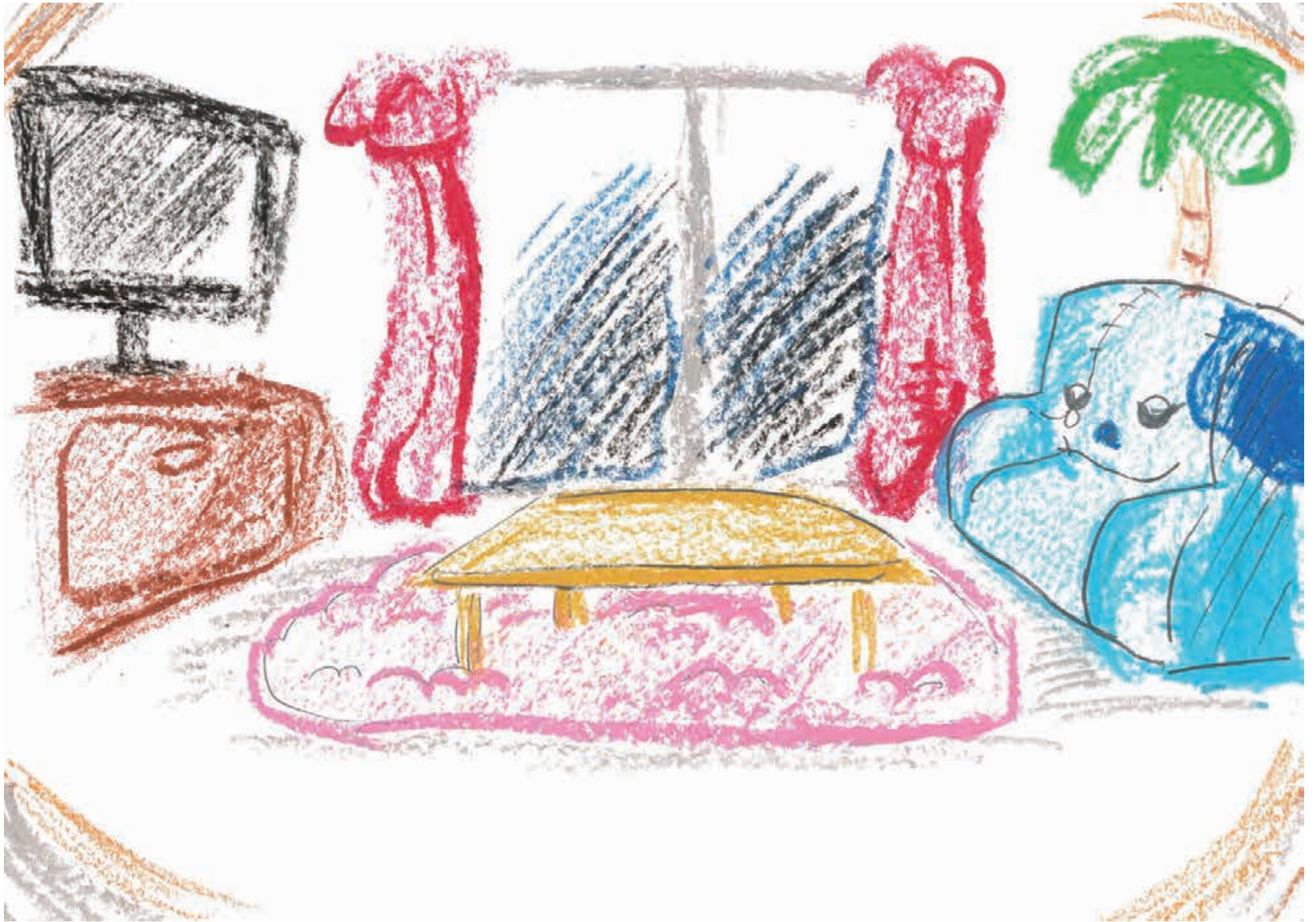


ソファくんは捨てられました。古くなったからです。

毎日も通りすぎて行く人をながめていました。



そんなある日、マチコちゃん一家が拾ってくれました。

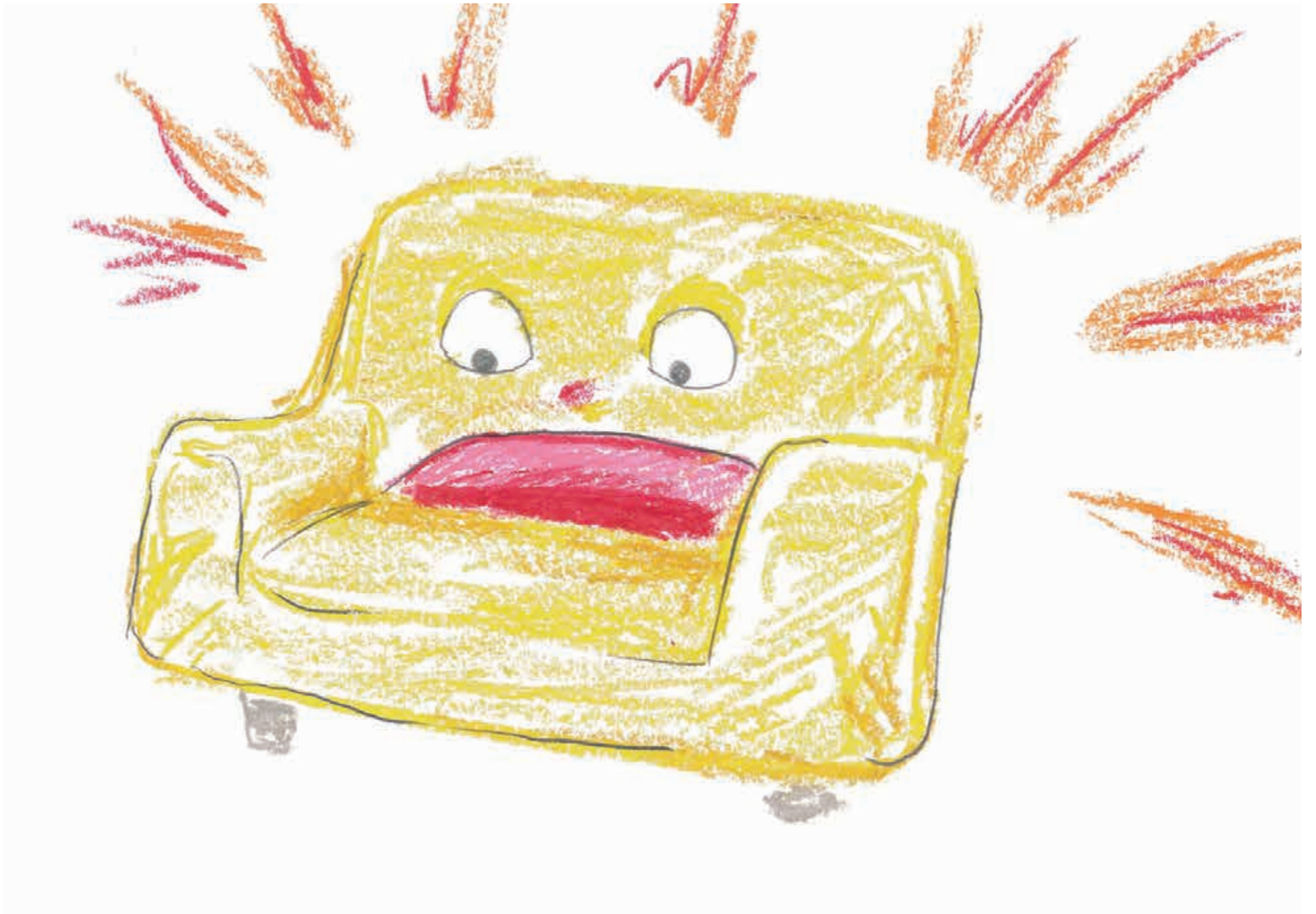


テレビの前に置かれたソファくんは、うれしくて、  
安心して、ゆっくり眠りにつきました。





ソファくんが目をさますと家族のみんながよろこんでます。



見るとソファくんがきれいになっています。

お父さんが直してくれたのです。

「あったかいなあ」ソファくんがつぶやきます。



その日の夜、家族のみんなで映画をみました。

もちろん、ソファくんも一緒に・・・。



『ああ、あったかい、家族のぬくもりがあったかい』





映画を見終わりお父さんはパジャマに着替えに行きました。

「さあ、寝ましょう」ママの声が部屋にひびきます。



「ソファくん、私あなたが気に入ったわ」

「マチコちゃん」

「だってあなたとても温かいもの」

「ぼくはソファ、当たり前じゃない」

「そうじゃないの」



「マチコちゃんはぼくの声が聞こえるんだね」

「子どもだもん」

マチコちゃんとソファくんはおしゃべりに夢中です。

「マチコちゃんは、、、やさしいね」

「そう？」



「じゃあ、マチコちゃんにいい事を教えてあげる」

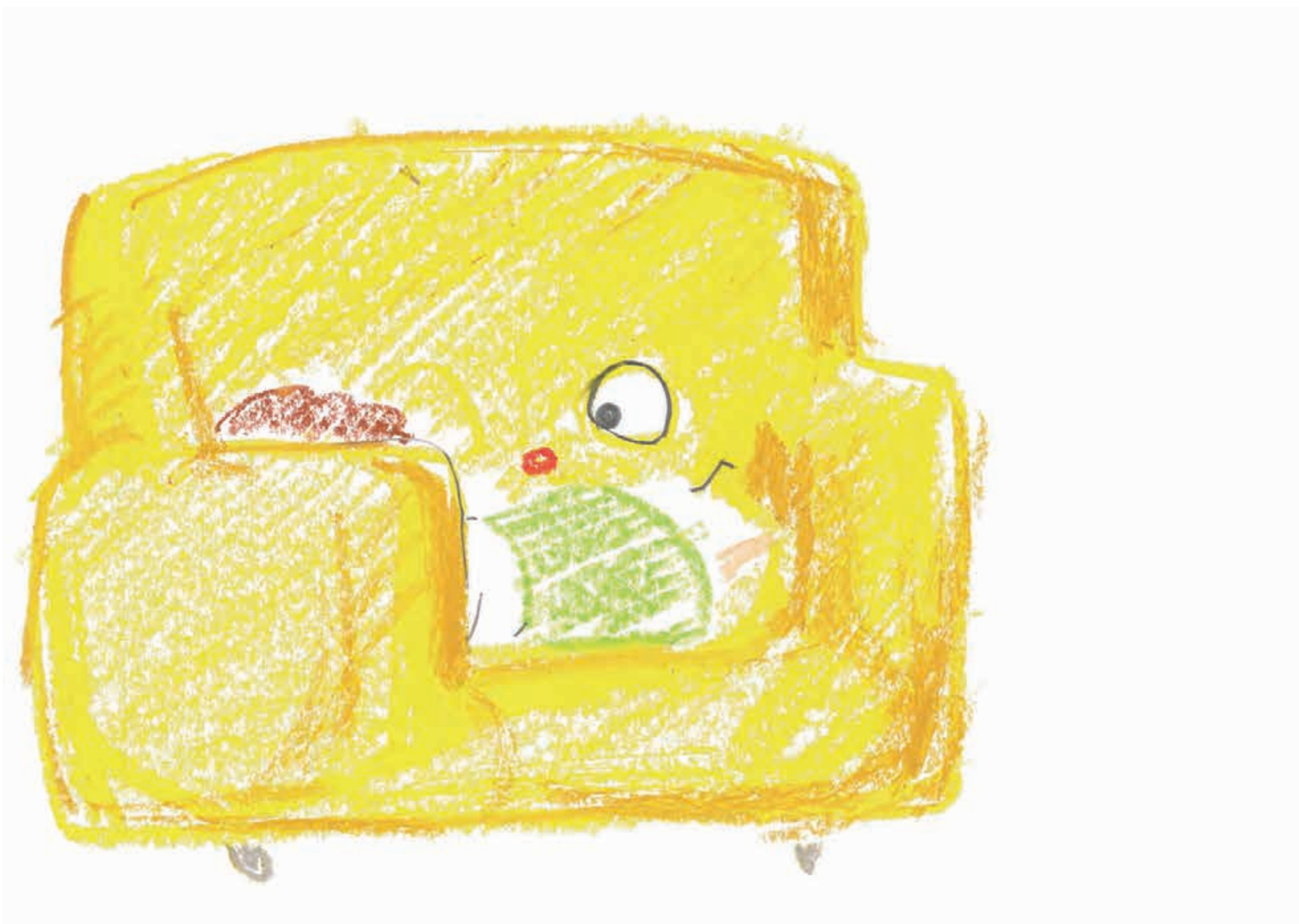
「あら、何？」

「あのね」





「物も生きてるんだよ。だからね、優しくされるとうれしいんだ」



「わかったわ。覚えとく、大人になっても覚えとくわ」

「・・・ありがとう」

「じゃあ私、一緒にねてあげる」



「え？」

「そしたらソファくん、さむくないでしょ？」

「…………。」

ソファくんから温かいピンク色の涙がこぼれました。



「ああああ、ほんともう、この子ったら」

ママがマチコちゃんに毛布をかけました。





『ああ、あったかい。マチコちゃんの気持ちが、あったかい』

# NOYES

## S O F A 1 0 0 %

2017年2月25日発行

著者 福原 賢侍

発行者 株式会社 NOYES

第5回 NOYES 絵本コンクール ZIP 賞作品